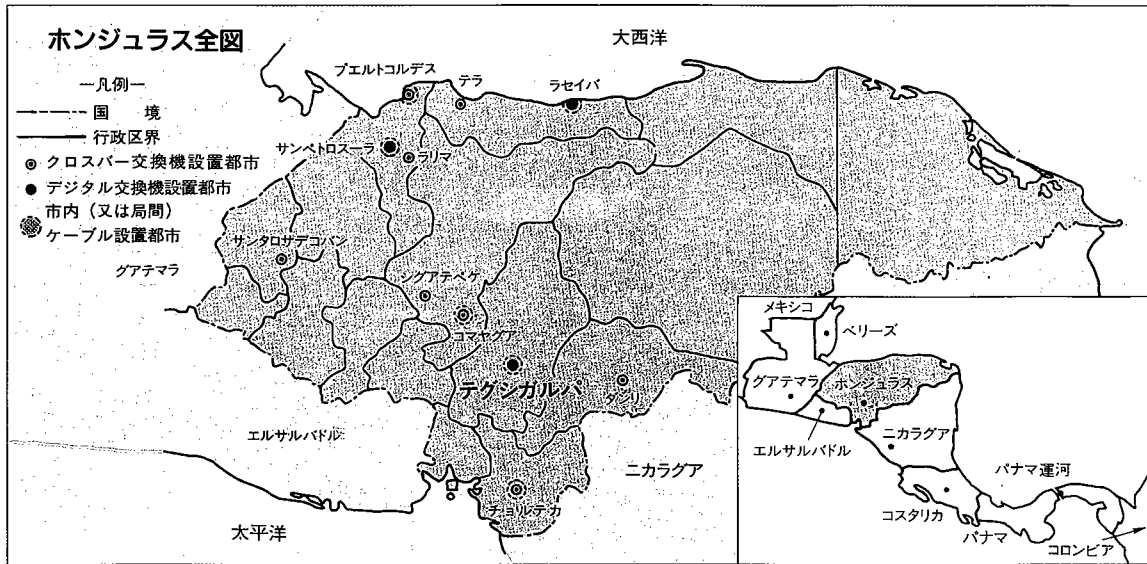


電話網拡充事業

ホンジュラス



■事業概要

借款契約締結年月	借款金額
1983年10月	70億2,600万円

1980年における同国の電話普及率は100人当たり0.9台と中南米の中でも低い水準にありました。また、首都テグシガルパの電話普及率は近隣諸国の首都の10～50%の水準に留まっていた^(注)。このような通信網の整備が遅れていることから通話完了率も低く、また主要都市における通信需要が高いために積滞が多くならざるをえないといった深刻な状況となっていました。そこで本事業では、テグシガルパ、サンペトロスーラをはじめとする主要11都市の電話積滞の解消と今後の需要への対応を図るための通信網拡充が行われました。具体的には3都市における合計29,600回線のデジタル交換機新設や8都市における合計7,400回線のクロスバー交換機増設をはじめとして、市内ケーブルの設置や電話局の新增設も実施されました。そしてOECSは、これらの設備調達費用およびコンサル

タント雇用費用に対して借款を供与し、1988年10月に完工しています。

(注) 1人当たりGNPが同国と同水準にあったエルサルバドル、ボリビアの同時期における電話普及率はそれぞれ1.4台、2.5台となっていました。また、ホンジュラスを除く近隣諸国の首都における同時期の電話普及率は最も低いニカラグアのマナグアで4.8台、最も高いコスタリカのサンホセで23.6台となっていました。

■運用状況と効果

完成後の運用維持管理は本事業の実施機関であるホンジュラス電気通信公社が引き続き担当し、事業実施段階において訓練を受けた職員が中心となって行っています。交換機に付属する試験装置を使用して定期的な点検を行っており、現状では特に運用上の問題は見受けられません。

本事業で設置された交換機の設備容量は、各対象都市で40～73%（1990年）という高い占有率を示していることから、本事業は各対象都市の通信事情改善に大きく貢献していると言えます。しか

し、回線使用率が各対象都市で78～99%（同年）と極めて高いことから、本事業が実施された現在でも設備容量が不足し、将来の需要増加はもとより、現在の需要さえも十分に賄いきれていない状態にあることが窺えます。

また、同国全体についてみると、電話普及率と需要充足率は本事業が進められるに伴い確実な改

善傾向を示しており、本事業が同国全体の通信事情改善にも貢献しているものと判断されます。事実、本事業が完成した1988年時点における全国の設備容量の内、約30%が本事業によって設置されたものであることを考えると本事業の貢献度がいかに高いかが良く判ります。

●対象都市別の設備容量と回線使用率

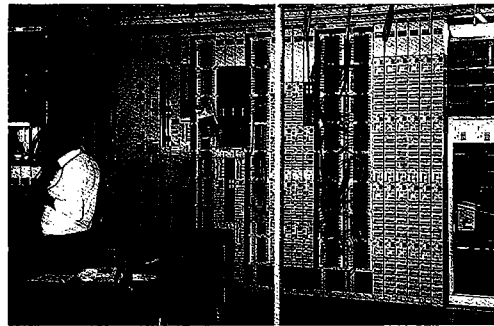
対象都市	総設備容量	回線使用率	本事業設備	
			設備容量	占有率
テグシガルバ	22,000	84%	16,000	73%
ダンリ	1,000	94%	600	60%
コマヤグア	1,400	98%	1,000	71%
シグアテベケ	1,000	99%	600	60%
チョルテカ	3,000	68%	2,000	67%
サンペトロスーラ	27,000	78%	12,000	44%
ラセイバ	3,712	98%	1,600	43%
プエルトコルテス	2,500	79%	1,500	60%
ラリマ	1,000	99%	400	40%
テラ	1,000	78%	600	60%
サンタロサデコバン	1,000	95%	700	70%
合計	64,612	82%	37,000	57%

●ホンジュラス全体の電話普及率・

需要充足率の推移 (単位：%)

年 度	1986	1987	1988	1989	1990	1991
電話普及率	1.3	1.3	1.6	1.7	1.9	1.9
需要充足率	49.9	51.3	59.4	65.6	67.2	63.5

(評価時期：1993年2月)



▲首都テグシガルバ：テグシガルバ局搬送端局装置



▲首都テグシガルバ：ミラ・フローレス局国際交換席